新潟大学　人を対象とする研究等倫理審査委員会　オプトアウト書式

①　研究課題名	筋間隙から口腔外科手術時の舌神経損傷リスクをスクリーニングするAIモデルの確立
②　対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
新潟大学医歯学総合病院500例、歯科クリニック（おだ歯科医院、かつみ歯科口腔外科、あけぼの歯科）500例、基幹病院（鶴岡市立荘内病院）500例の抜歯目的で来院した患者CTデータ、ならびに学生実習で用いたすべてのご遺体を研究対象とする。	
③　概要	
舌神経は、舌前方2/3の感覚に関わる神経です。下の顎の内側を走行するため、下の顎の親知らずなどの抜歯手術においても損傷する危険があります。舌神経はCT等の画像検査では確認できないため、術前に患者の神経の走行が確認できず、神経が傷つくことを避けるための診断基準が存在しませんでした。研究代表者らは、ご遺体を用いた解剖にて観察した舌神経が筋と筋の間を走行する事実に着目し、口の底を形成する顎舌骨筋後縁が親知らずより後ろに位置するとき（C型）にリスクが低く、前に位置する場合（A型）にリスクが高くなり（両者が一致するのがB型）、ABC分類から術前に舌神経が傷つくリスクの判定が可能なことが示されました。 本研究は、患者CTデータから三次元像を構築し顎舌骨筋後縁分類（A～C型）を行い、CT断層画像とABC分類を教材としたAIを開発し、舌神経が傷つくリスクを予測します。本研究では、患者CTデータにより得た断層像とパノラマX線画像データから舌神経の傷つくリスクをスクリーニングするAIを確立することを目的とします。	
④　申請番号	2022-0231
⑤　研究の目的・意義	患者CTデータにより得た断層像とパノラマX線画像データから舌神経の傷つくリスクをスクリーニングするAIを確立することを目的とします。
⑥　研究期間	倫理委員会承認日から2025年３月まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	遺体引取情報は解剖学教室で保管し、性別、年齢、年度以外の個人情報は扱いません。患者から得た臨床CTデータに関しては、プライバシーの保持、秘密保持を徹底し、個人を特定できないよう十分配慮されています。また収集された画像は、研究者等のみに閲覧を許可し、担当医に対しても収集データを開示することはありません。得られた情報の集積は暗号化ないしパスワードロックを行ったファイルで行い、学会や論文で公表する場合も含めて、ご遺体のプライバシーに関する内容は一切外部に公表しません。
⑧利用または提供する情報の項目	性別、年齢、年度、個人を特定できない眼窩下神経の走向と層構造、唇の周りの筋肉との関係を示す解剖所見
⑨利用の範囲	新潟大学歯学部解剖学実習室　研究責任者：医歯学系（歯）大島勇

	人
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学・医歯学系（歯）・教授・大島勇人
⑪お問い合わせ先	TEL: 025－227－2812 E-mail: histoman@dent.niigata-u.ac.jp